

【日 時】 2019年3月25日(月) 10時～11時

【場 所】 青藍会 在宅医療支援センター ハートハウス成城 相談室

【出席者】 民生委員 副会長 木下 悦子 様

地域住民代表 鈴木 禮子 様

成城あんしんすこやかセンター 橋本 陽子 様

成城リハケアケアマネジャー 望月 明子 様

(順不同)

東京事業部部長 岩本 悟史 定期巡回管理者 清野 寛

訪問看護管理者 平井 直子 定期巡回計画責任者 根本 恵太

1、開会の挨拶

2. 介護・医療介護連携推進会議の参加者ご紹介

3. 定期巡回随時対応型訪問介護看護サービスの現状

定期巡回・夜間対応型訪問介護・訪問看護・ハートハウス成城脳活性リハビリ、認知デイ
定期巡回チーム型連携の各チラシを利用し説明する。

定期巡回について

現在登録10名。内2名入院中

利用者の要介護度は平均3.5

サービス内容は服薬管理、排泄などを中心に行っている。

夜間対応型訪問介護について

夜間対応型訪問介護を2018年12月から開設。(18時から朝6時)

4月1日現在の実働3名。

訪問範囲は砧・祖師谷・喜多見の4地域以外のニーズを拾うためにも左記4地区以外にもサービス範囲を広げて訪問をしている。

定期巡回チーム型について

従来の訪問介護を使っている方で、ADLの低下により在宅での生活が困難になった方などに対して、在宅生活の限界点を引き上げるために、定期巡回の導入を検討いただいている。

しかし、慣れたヘルパーを切り替えてまで定期巡回への移行は抵抗があるという方が多い。そこで、訪問介護事業所と、定期巡回の事業所で委託契約を結び(以下チームメイト)、定期巡回のサービスを訪問介護事業所に委託させていただき、今まで利用していたヘルパーを継続したまま定期巡回をご利用できるというサービス。

世田谷区からチーム型のサービスについて了解を得て行っている。

現在チームメイトは1事業所。ご利用者は今まで3名ご利用いただいている。

現在もチームメイトを募集し、地域全体でご利用者様を支えていけるよう努める。

訪問看護ステーションについて

24時間265日行っている。土、日曜日も稼働している。

認知症デイサービスについて

特別養護老人ホームハートハウス成城の共用スペースを利用して認知デイを行っている（ユニット内）

要支援1から要介護2までが対象者だが相談に応じて柔軟に対応している。

共用スペースを利用するサービスのため料金が安い（単位数が約半分）

現在は要介護度が低く動ける方を対象に行なっている。

鈴木様より）

Q. デイサービスは送迎は込みなのか？

A. 送迎込みです。

Q. 大蔵は大丈夫か？

A. 大丈夫だと思うが、管理者の羽鳥まで問い合わせ、相談ください。

地域で活動していて、高齢者の方があんしんすこやかセンターを知らない。

プロの方で普及していかないとなかなか広まらない。普及啓発に力を入れないといけない。

Q. サービスを普及していくために青藍会ではどのような取り組みをしているのか。

A. 主は居宅介護支援事業所、病院連携室へ営業、サービスの説明を行なっている。

介護度が出ている方からの相談が多いため、ケアマネジャーをメインにサービス紹介等をしている。

4、サービス実施状況報告（別紙参照）

別紙 自己評価・外部評価 評価表を参照

5、意見交換・質疑応答

橋本様

Q. 成城の居宅は6ヶ所でCMも少なくケースも限られている。介護度が3～5の方も施設へ入所される方が多い。ケアマネジャーも要介護1・2とあまり重度な方を持っていない。定期巡回のサービスの利用も少ないと思う。あんしんすこやかセンターも予防のケースが多く利用する機会がない。あんしんすこやかセンターで地区のケアマネジャーさんの勉強会があるのでそこで事例を交えた情報共有などを相談させてほしい。また、勉強会の時間は夜間も大丈夫か？

A. 勉強会の機会に情報共有をさせていただけたらと思います。いつでも参加させていただきます。

木下様

民生委員では定期的な見回りは年1回程度行なっている。独居の方のお宅に掃除にいたり声掛けにいたりしている。これまで3件くらい孤独死を見ている。

平井

サービス開始時に、死に方など最後にどうするか決めておかないと、後になって治療するかしないか、誰に連絡

をするか、まだ治ると思っていて何もしてくれないと不満を持つ方もいる。早い段階で人間は何れこうなっていくということを話していかないと、今までの医療では助けることを基本にしてきたため、最後に治してもらえると期待を持っていて Dr.が治してくれないと不満を持つケースがある。要支援になった時点で亡くなる時にどうするか、不要な医療をしないなどの社会教育がされると良いと感じている。

鈴木様

エンディングノートなどの活用も考えていくと良い。エンディングノートをカフェやサロンで書いているが、なかなか最後まで行かない現実もある。もっと普及させていかないといけない。

次回は、2019年8月下旬に開催予定。

以上